

す。あと国際大会がすぐ隣のソウルにあります。これもめったにないことであります。大勢で参加して友好を深めることができるんですね。たまたまそういう年にあつた私どもが、私どもの発想でやること、本間くんはすばらしい名前をけてくれましてジャイカ作戦というカッコいい名前を付けてくれました。JICA、国際協力ということでございます。東南アジアからきております約十二、三名十カ国にわたる人達を、たった一晩でも私ども三条に招いて友好を深めたい、日本人の生活を知っていただきたいといった、勿論ささやかですがやっぱりやってみようではないか、国際奉仕元年に向かってチャレンジをしてみたいと思うわけであります。たまたま本年度のRI会長のロイス・アービーはロータリーに活力を、活力というのはやることなんだ、行動することなんだという言葉で端的に言い表わしました。これはまさに、北ロータリークラブの為にテーマ設定してくれたのではないかというふうに考えるわけでございます。私は大好きで忘れられないオスカー・ハマーンシュタインの詩の一節で愛は、それを与えなければ愛ではない、という一節があるんですよ。これを私はロータリーに入って五、六年たった時に確か高崎の地区大会でこの言葉を取り上げたRI会長代理がおりまして、韓国の人でございまして韓国大学の学長で新聞社の社長さんなんですけれど、その人が愛は与えなければ愛ではない、次に、歌はそれを歌わなければ歌ではない、鐘はこれを打ち鳴らさなければ鐘ではない、こういう言葉を吐いたんですよ。僕は更に付け加えるに、よいと思ったことはそれをやらなければ北ロータリークラブではないと申し上げたいと思うのであります。ロータリークラブは友情、友情といっておりますが、友情は酒を飲むことだけではなくて、何か一つのことを皆で一緒になってやる中から、皆が一緒になって流す汗の中から、真の友情が生まれるのではなからうか。しかも、楽しくやろうではないかという条件を付けて。今年度一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。大変有難うございました。

米山奨学1年留学生



鈴木岳詩君

生年月日 昭和40年2月1日生 23歳

住 所 三条市西裏館

学 歴 新潟大学文学部英文学科今春卒業

留 学 先 ルイジアナ州チューレーン大学

8月プログラム:

例 会 日	8月2日	クラブフォーラム
	8月9日	卓話 国際奉仕委員会
	8月16日	例会日変更
	8月23日	卓話 丸山誠一君
	8月30日	卓話 佐藤啓筆君

7月12日例会: クラブアッセンブリー

7月19日例会: 卓話 クラフトピア'88 木宮隆君



三条北ロータリークラブ週報

PUT LIFE INTO ROTARY — YOUR LIFE

ロータリーに活力を—あなたの活力を

国際ロータリー会長 ロイス・アービー 第256地区ガバナー 榎内悌三郎

会 長/梨 本 清 一

幹 事/今 井 克 義

SAA/米 山 忠 俊

例会日/火曜日 PM12:30~1:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

例 会 日
1988. 7 . 5
累 計 No 80
当 年 No 1

行 事: クラブアッセンブリー

出 席: 本日の出席 40名中33名

先週の出席率 40名中35名 87.50%

先週のメークアップ: 7月3日 新潟RC(会長幹事会)へ 梨本清一君 稲田憲治君

7月4日 三条南RCへ 梨本清一君 今井克義君 山崎 勲君

ヴィジター: 三条RCより 藤田説量君 鈴木宗資君 平原信行君

三条南RCより 西巻克郎君 弥久保藤雄君 田辺吉洋君 馬場茂夫君
湯山浩光君

会 長 挨 拶: 梨本清一会長



今日は私にとりましていささか興奮気味でありまして恐らく記念すべき日になると思うわけでございますが、その日に何と何とも思いもかけなかった藤田説量バスターガバナーを始め三条クラブ生みの親の大先輩鈴木宗資氏、南クラブから西巻会長、弥久保幹事さん総々たるメンバーからおいでいただきました。あとたくさん三条クラブ南クラブの皆さん方本当に光栄でございます。厚くお礼を申し上げたいと思います。今日はもしも時間が許しましたら三条北クラブはこんな所だということをごらんいただきまして何かお気づきの点がありましたら

色々とお指導をいただきたいと思っておりますので、どうぞ最後までお付き合いをたまわれば幸いです。それからロータリー財団でいよいよ今月の十三日アメリカに出発されます鈴木たけし君も来ていただきました。後でほんとにささやかなミニミニ壮行会を行いたいと思います。今日の例会は今日と来週の例会の二日間を使いまして本年度北クラブの目標設定、それから色んな活動計画を皆さん方と十分に話し合う例会に使いたいと思います。きょうは会長、私の所信をお聞きいただきたいと思います。来週は各委員長さん方から各委員会の本年度の計画を話し合っていたきたいと思います。どうぞ御用意の方よりよろしくお願い申し上げます。この二日間を使いまして十分にコミュニケーションを密にいたしまして周知徹底して新年度の活動を推進したいと思いますのでどうぞ

よろしくお願い申し上げます。さて今日は私の最初の会長挨拶でございまして何をお話ししようかと考えて参ったわけですが、会のリーダーという立場になりました私にとりまして、最も気をくばらなければいけないことで、かつ言うには大変やさしいけれども、行うといいましょうか実際は大変むずかしいという人間関係のコミュニケーションということについてお話しをしてみましたと考えて参りました。これは会社経営においてもそうでございますが、社員とトップとの関係、社員同志のコミュニケーション、或いは小さな家庭内におきましても夫婦のコミュニケーション、親子の対話とか、言うのは簡単なんですがなかなかむずかしいしろものでございます。幸いにして我北クラブはまだはじめて知り合ってわずか一年半でございますけれども、もうすっかり仲良しになりました。大変うれしいことでございます。それでもまだ旅行したり、ゴルフなんかいたしまして、その人の知らない部分を発見いたしますと、ああこの人はこんな素晴らしいところがあったのかとびっくりして、うれしくなって、急にまた近づくというようなわけでございます。そういうふう段々仲良くなっても、例えば夫婦なんかそうですけどけれども、充分仲良く知り付くしているにもかかわらず見る角度が違ったりいたしますとまたまったく違うような解釈をしてしまいます。心理学の方では錯誤なんて言葉を使ったりいたしますし、思い込みなんていう言葉を使うんですが、そんな場面もしばしばあります。ここで生れてはじめてやる小咄を用意して参りました。ある所に三条北ロータリークラブというクラブがございました。ここに五十嵐さんという方がいらっしまして、ある時メンバーの一人が「五十嵐さん、あなたが北クラブに入ってきてから北クラブの柄が随分悪くなったという話だよ」といいました。そしたら五十嵐さんという人は大変げんそうな顔をいたしまして「そうかな、うちの家内が最近言うことにはあなたが北クラブに入ってから、あなた随分柄が悪くなったわねえ」。小咄というのは大変むずかしいものでございまして、ここで笑いがこなかったらどうしようかと思って催したわけでございますけれども…五十嵐さんという方の名誉の為にきちんと申し上げておきますが、この五十嵐さんという方がこの北クラブに入会してくれましてから、北クラブはとっても明るくなりました。ほんとに和気合々になりました。五十嵐さんという方ご自身も、入会以来今まで無欠席でございまして、大変北クラブを楽しんでいらっしやいますことを御報告を申し上げます。もう一つ、ではドイツの小咄を、これはドイツに本当にある有名な話でございます。ある仲のいい夫婦がおりました。相手のことをお互いがもう充分知り付くしているという風に思っておりました。それがある日、朝食を食べる時に御主人の方ですね、ドイツのパンというのは丸いパンだそうでございまして、下の方が硬くて上がやわらかいパンだそうで、いつもこの奥さんはそのパンを横に切りまして、御自分が硬い方を食べまして、やわらかい方を御主人に差し上げるという習慣でずっとやって来た夫婦でございますが、ある朝めしの時にしみじみと哀願するようにその御主人がいうことには「ねえ、きみ、たった一度でいいから下の硬い方を食べさせてくれよ」といいました。奥さんは大変びっくりいたしました「あなたはやわらかい方が好きだと思って私はいつも嫌いな下の方を食べていたんです」で御主人がいうには「おまえは硬い方を好きなんだと思っておった」。これはほんとの小咄でございますけれども…とにかくわかっているようでもはっきりいわなければわからないということを申し上げたかったわけでございます。私ども三条北クラブはまだ一年半でございまして、これから新しい会員もどんどん入っ

したがって自由な発想ができるクラブでもある、しかもそれをすぐにやることもできる素晴らしいクラブでもあるということもご認識をいただきたいと思うわけでございます。さてそういった形成途上の我クラブがどういうことを目標にしてやるかといいますと、三つのことを私は取り上げたいと思います。まず第一に先程も申し上げました、楽しいクラブ作りをしようではないかと、これをまずターゲットの第一番におきたいわけであります。二番目に行動するクラブでありたい、まずやるのではないかと。それで三番目には品位あるクラブになろうではないかということを申し上げたいのです。これはちょっと誤解があるかも知れませんがコメントいたしたいわけでございますが、私ども自身が、我々はエリートの集団であるといったような考え方や思いをする必要はまったくないんであって、他者が、外部から我々を見て、生き方としてあのような人をお手本にしたいなと、せめても言われなくてもいいですけども、思わせる程の人間集団をめざそうではないか、その位の気概を持とうではないかということをまずターゲットに上げたいと思うわけでございます。では具体的にどういった活動を今年やるのかと言いますと、内にあっては楽しい例会作りをしようではないか、外に向かつては色んな奉仕活動がありますが、北クラブの国際奉仕元年といわれるような活動をしようではないかということでございます。まず内にあっては楽しいクラブ作り、これもさっきいきました形成途上でありますので組織の充実ということになりますが、その前提としてはやっぱり会員拡大だろうと思います。昨年の平松幹事さん随分ご苦労なすったなあとということを、今回今井幹事さんと予算編成をいたしましてよくわかりましたが、昨年よりも随分楽な予算案を作ることができました。しかしまだまだ40なんで、やはり50がありませんと経済的基盤が確立しないということになりますので、50をめざしたい。少なくとも20%アップ8名増の48名を全員でもって目標に頑張ろうではないか。そして、クラブ奉仕委員会の各クラブ委員長さんが来週発表なさると思いますけれども、皆なで知恵を出しあって楽しい例会作りをしようではないかということであります。次に社会奉仕とか職業奉仕、色んな奉仕活動がございしますが、それぞれ一所懸命やりたいわけでございますけれども、その中にあえて国際奉仕に照準をしばったような活動計画を立てたいと考えるわけであります。私どものクラブはこれまで創立以来国際奉仕の仕事をしておりました。それはロータリー財団のボックスであり、米山であり、ポリオプラス基金であり、ずっと確かにやっております。しかし考えてみますと、これは世界中の全部のロータリークラブはみんなやっていることなんです。この間も樋口会長さんお休みの時にかわってご挨拶申し上げましたが、アジア卓球選手権大会、皆が一所懸命世界平和を望みながら力を出しあってボランティアでやっているあの大会、私どもでは手の届かない段階の中での平和へのぶちこわしといいいましょ。またペルシャ湾上空の大型旅客機のたった一発の砲撃、簡単に踏みねじられる世界平和は、確かに私どもの手の届かない所ではございますが、私はロータリアンでなくとも人間である以上、人間の究極の目的というのは平和ではないかと思ひます。平和があつてこそ経済が成り立つ、文化があり、政治が有るんではないかと思うのです。何のたしにもならないかも知れませんが、私どもの発想で、私どもの手で、世界平和の為に一石を投じる努力をしようではないかということを本年度うったえたいわけであり。たまたま私どものクラブは本年度夏期交換学生を受け入れ派遣のクラブにあたりました。鈴木たけし君の奨学生のスポンサークラブでもあります。私は鈴木君のカウンセラーでもありま